

2024年度

# 国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

## 目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領 ……	3
専門ゼミナール選択指導について ……	4
2024年度専門ゼミナールI一覧表 ……	7
2024年度専門ゼミナールI概要 ……	9

# 国際学部

## 専門ゼミナール選択要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションは、次の要領で開催します。

○日時 : 2023年9月15日(金) 13:00~16:30

○教室 : AITADEホール

○内容 : ① 各専門ゼミナールの紹介  
② 専門ゼミナール選択の方針・選択方法・スケジュールの説明

### \*スケジュール

説明会	ゼミ選択期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
9/15(金)	9/15(金)~ 10/14(土)正午	10/14(土) 12:00(正午)	11/11(土) 12:00(正午)	12/2(土) 12:00(正午)

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】  
—2023 年度専門ゼミナール選択指導について—

2023/9/15

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（9 名）、最大定員（最も多い場合で 18 名）**とします。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者数が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生の皆さんは、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) **1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。**ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者がいなかった専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) **専門ゼミ選択は皆さんの所属学科にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となったり、学生を指導していく上で目標が達成されない恐れがあったりする場合において、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を「各専門ゼミナール概要資料」に記載していますので、資料をよく読んで精査してください。

2. 専門ゼミ選択のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナール選択に関する情報を 9 月 15 日（金）より教育支援課ホームページで公開します。公開内容には以下が含まれています。
  - ① 2024 年度国際学部専門ゼミナール選択オリエンテーション資料（本資料）
  - ② 各専門ゼミナールの概要（シラバス等）
  - ③ 各ゼミ提供の付属資料（Google Driveへのリンク）
- (2) 皆さんは約 1 か月のゼミ選択期間に「各専門ゼミナールの概要」をよく読み、各ゼミが提供する付属資料（Google Drive※1）などの閲覧、任意で開かれる説明会への参加、ゼミ見学や研究室訪問などを積極的に行って情報を集め、志望ゼミを選択するように努めてください。**複数のゼミを見て、教員と必ず面談を行ってください。その際、教員から志望調査票にサインをもらってください。志望ゼミの教員のサインがない志望調査票は無効となりますので注意してください。**
- (3) A～F 先生に質問がある場合は各学科長（国際理解学科：山田先生、国際観光学科：種村先生）、もしくは教務委員長（千葉）までご連絡ください。

(4) 皆さんは、志望調査票に志望するゼミ教員からサインをもらったうえで、10月14日（土）正午までに調査票を教育支援課へ提出してください。

(5) 第1回選考でゼミが決定しなかった学生は、第2回以降の選考で決定します。

(6) その他、疑問等がある場合は教育支援課、あるいは教務委員長の千葉先生までご相談ください。

※1は教育支援課からのお知らせ本文および教育支援課HPに記載しています。

#### <参考> 専門ゼミ選択のスケジュール

9月15日（金）	専門ゼミナールオリエンテーション・関連資料公開（教育支援課HP）
	↓
～10月14日（土）	<u>第1志望ゼミ選択期間（研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談）</u>
	↓
10月14日（土）正午	第1志望調査票提出期限（期限厳守）
	↓
	ゼミによって第1志望者を選抜（必要が生じた担当教員）
	↓
11月1日（水）	第1回選考結果発表（教育支援課HP）
	↓
～11月11日（土）	<u>第2志望ゼミ選択期間（研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談）</u>
	↓
11月11日（土）正午	第2志望調査票提出期限（期限厳守）
	↓
	ゼミによって第2志望者を選抜（必要が生じた担当教員）
	↓
11月21日（火）	第2回選考結果発表（教育支援課HP）
	↓
～12月2日（土）	<u>第3志望ゼミ選択期間（研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談）</u>
	↓
12月2日（土）正午	第3志望調査票提出期限（期限厳守）
	↓
	ゼミによって第3志望者を選抜（必要が生じた担当教員）
	↓
12月下旬	所属ゼミ発表（最終結果）

### 3. 専門ゼミ履修上の注意事項については以下のとおりです。

(1) 「専門ゼミナールI」を履修するためには、卒業要件単位（「各教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」は含まない）を48単位以上修得していなければなりません。

(2) 専門ゼミナールには順序性がありますので、「専門ゼミナールI～IV」を履修できなかった場合や単位を修得できなかった場合は卒業が遅れることとなります。

(3) 専門ゼミナールは、原則、5セメ（春）→6セメ（秋）→7セメ（春）→8セメ（秋）の順に履修します。ただし、真にやむを得ない理由（留学等での半期休学、病気及び怪我）があること、指導やゼミ活動に支障がないことが確認できた場合には、半期遅れの履修が認められる場合があります。なお、この半期遅れの履修は、以下に該当する場合に限り検討可能です。

① 4セメ終了時点で卒業要件単位48単位以上を修得し所属ゼミが決定していた者で、5

セメに真にやむを得ない理由で休学し、6セメに復学した者

- ② 「専門ゼミナールⅠ」を履修開始した後に、真にやむを得ない理由で半期休学した者
- ③ 「専門ゼミナールⅠ」を履修開始した後に「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」のいずれかの単位を真にやむを得ない理由によって落とした者

※4セメ終了時点で卒業要件単位48単位に達しなかった者の「専門ゼミナールⅠ」の半期遅れの履修(6セメ履修開始)は対象外です。「専門ゼミナールⅠ」の履修は、最速で7セメからとなります。

## 2024年度 国際学部 専門ゼミナール I 一覧

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	3417
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	教職科目全般	10名	3420
3	生田 亨	観光	ツーリズム産業(運輸産業、宿泊産業、旅行業、クルーズ、関係官庁、自治体、DMO等)の業界・企業研究	旅行業論、トラベルビジネス論、観光マーケティング論等	12名	3434
4	生田 祐子	理解	English for Global Engagement (国際社会とつながる英語)	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論	9名	3423
5	榎本 アンドリュー	理解	American Minority Studies	As many English courses as possible	10名	3515
6	大森 一三	理解	哲学・倫理学を通じて時代社会を考える	「哲学」「倫理学」「歴史哲学」「外国史A」	10名	3421
7	海津 ゆりえ	観光	宝探し、エコツーリズムの実践を通して学ぶ、持続可能な地域づくり	地域プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ、エコツーリズム論(5セメスター)	15名	3527
8	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)	10名	3513
9	北野 マグダ	理解	Culture in Media	English electives that focus on skills in writing and discussion, or as needed by the individual.	10名	3518
10	久保庭 慧	理解	法を通して「世界」を理解しよう	「国際理解と法・政治」「国際人権保障論」「国際機構論」「国際関係論」など国際法関連科目	10名	3505
11	小島 克巳	観光	交通事業や交通政策に関する研究	観光交通論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論	10名	3503
12	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	英語パフォーマンス、英語とメディア	12名	3432
13	清水 麻帆	観光	『文化と地域創生』(担当教員の研究テーマ:文化を基盤とした維持可能な地域の発展)	観光政策論・観光資源論	10名	3516
14	菅原 周一	観光	①社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行う(テーマはゼミ生の話し合いで決定。グループワーク) ②企業の将来性や社会貢献度、魅力度を分析、評価する	特になし	15名	3522
15	杉浦 功一	理解	国際社会についての問題について考える	政治学、国際社会の現状と課題、国際理解と法・政治、平和学、現代世界と国家	12名	3419
16	杉山 富士雄	観光	競争戦略論で読み解く観光業界・企業	経済学、産業組織論、企業の競争戦略の経済学、食と農の経済学、観光の経済学	9名	3416
17	孫 美幸	理解	ホリスティックアプローチを通して、平和な未来、多文化共生社会を描く。 ～自分の将来につながる、共生のスキルを身につけよう!～	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群	12名	3521
18	種村 聡子	観光	ホスピタリティ・マネジメント	国際観光とホスピタリティ、観光サービスなど	15名	3504
19	千葉 克裕	理解	効果的に外国語を身につけるにはどうすれば良いのか? ー第2言語習得理論の理解と学びの実践ー	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学、統計学など	9名	3526

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室
20	利根川 由奈	観光	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する	「交流文化論」、「文化政策論」、「アートマネジメント論」	11名	3529
21	中井 治郎	観光	「文化遺産と観光」	「観光社会学」	10名	3531
22	黛 陽 子	観光	* サステイナブルなツーリズムと地域産業づくりへの取り組み * ヘリテージ(地球の遺産)を次世代へ維持する取り組み * 農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 * ヘリテージ・インタープリテーションの実践 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決策提示」	インタープリテーション論(理論・応用)、 観光とソーシャルビジネス、はゼミ生全員 必ず受講	12名	3525
23	丸 山 鋼 二	理解	「東アジアの多文化共生社会を考える」	文化人類学、英語音声学、民族の歴史と 世界、平和学、NPO・ボランティアの理論、 現代思想、地域研究、外国史B(東洋)、多 文化社会と共生など	10名	3523
24	本 浜 秀 彦	理解	視覚文化論(映像と身体)	「国際理解と文化」、「日本研究A」、「日 本研究B」等	10名	3514
25	八 木 良 太	観光	サービス関連企業の経営戦略とマーケティング	国際観光とビジネス、観光ビジネスプロ ジェクト演習Ⅰ・Ⅱ	10名	3536
26	山 田 修 嗣	理解	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～	特になし	12名	3413
27	渡 邊 暁 子	理解	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード:文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的 排除、移民・難民・国際労働移動、マイノリティ、コミュニティ	「文化人類学」「移民と難民」「民族の歴 史と世界」「開発教育論」、その他国際学 部の関連科目	12名	3517
28	渡 邊 三 津 子	理解	地理的地域調査法の習得と調査(フィールドワーク)に基づく地 理学的研究	地理学(あだち)、環境地理学、世界と日 本の地理 ※地理学の基礎を習得していること	10名	3512
29	A	理解	宗教から理解する現代世界、社会における宗教の役割	2024年度着任予定	18名	—
30	B	理解	国際社会における経済の役割、経済発展とこれからの世界	2024年度着任予定	18名	—
31	C	観光	ホテルサービス、ホテルマネジメント	2024年度着任予定	18名	—
32	D	観光	フードツーリズム	2024年度着任予定	18名	—



担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@bunkyo.ac.jp
研究室	3417
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、総合的な学習、社会科公民科教育法Ⅰ、社会科公民科教育法Ⅲ、4年・3年ゼミ、教育実習(中学) [秋学期] 道德教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、教職実践演習、(越谷 特別活動)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道德教育と特別活動を中心として、教育学全般に関心があります。ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関するものでしたら、何でもOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それらの問題への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。心と実践的指導力のある教師を目指して、共に歩いていきましょう。
ゼミの進め方	①3年春学期は、1年教職学生との交流学习の企画・準備・実践を行います。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。中学校との交流会も持ちます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④卒論執筆と同時に、多くのゼミ行事をこなしていきます。特別支援学級の生徒との交流会(6回)、卒論検討会、福島スタディーツアー、新潟スタディーツアー、八ヶ岳合宿などを行います。
留意事項 (Requirement など)	中学校との交流会などのゼミ活動には、特別な理由がない限り必ず参加していただきます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日行います。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育、外遊びで形成される「共生」能力 など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂先生が目指す「人を愛する教育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。福島や新潟へのスタディーツアーもあります。 実際に学校現場に行って、子どもたちにふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。(4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@bunkyo.ac.jp
研究室	3420
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 (週に1・2回は教員研修の講師等で不在)
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語音声学、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、コミュニケーションのための英文法、教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	基本的には終日大学にいます。研究室のドアに予定を掲示しています。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を主な対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業について、それぞれの学習段階に応じた指導について考えます。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。すでに約 90 名のゼミ卒業生が教員として活躍しています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきたいと思います。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします。並行して、イベント (小中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表など) に向けて準備・研究をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4 年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習指導、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、英語教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、10 名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。メンバー決定後に、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶ英語の授業」「学力差に応じた英語指導」「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語教育」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	・阿野ゼミでは、英語教育を専門的に学び深めることができます。英語教育・英語学習に関する知識を一人ひとりが主体的に学び、授業実践につなげていきます。実際に学校を訪問して授業を見学して現場の先生方にお話を伺ったり、高校生に英語を教えたりする機会もあります。また、教育について学んでいく過程で英語力の向上にも繋がっています。英語教育に関心のある仲間と一緒に充実した 2 年間を送り、自分自身を成長させてみませんか？ ・阿野ゼミでは英語教師になりたい人や英語教育に興味がある向上心の高い人が共に学ぶことができる環境が整っています。英語教育では、自分の受けてきた教育を振り返り、現在の教育との比較を行い、理想の英語教育を迫及し、英語学習では、効果的な方法を学んだり考えたりする機会がたくさんあります。英語教育や英語学習について楽しく学び、知識を深めるとともに、英語をより身近に感じることができます。一人一人が仲間でありライバルのような存在なので、切磋琢磨して高め合い、卒業時にはゼミに入った時と比べて大きく成長することができます。

担当者名	生田 亨 (いくた とおる)
e-mail アドレス	tikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	3434
出講日	火・水・金曜日
ゼミの開講時間	3年生：金曜日4限、4年生：金曜日5限
担当科目	旅行業論、旅行法規、観光マーケティング論、トラベルビジネス論、 トラベル実務、キャリア形成 B、新入生ゼミ、応用ゼミ、専門ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールで連絡ください（水曜日、金曜日の対面予定）
ゼミのテーマ	ツーリズム産業（運輸産業、宿泊産業、旅行業、クルーズ、関係官庁、 自治体、DMO等）の業界・企業研究
ゼミの内容・メッセージ	<p>ツーリズム産業の企業研究を目的に、企業分析や、調査メソッドを学び、チームや個人での発表機会を設けます。ゼミを通じて、学生生活を楽しみ、学問的視野を広げ、企業研究により社会への理解を高め、将来、社会で活躍できる人材の育成を目標とします。</p> <p>ゼミへの積極的な参加意識があり、ツーリズム産業に関心がある学生の応募を期待します。</p>
ゼミの進め方	<p>3年生の春学期では、ツーリズム産業の課題を研究し、グループで発表及び討議をします。今期は、コロナ禍後の観光人材不足、観光 DX、観光公害、SDGs 等の発表がありました。またゼミ合宿を関西方面とし、関連する鉄道会社、ホテル、世界遺産、テーマパーク等の事前調査も行いました。秋学期は、ツーリズム産業の業界研究と企業研究に軸足を置き、企業戦略、商品、マーケティング、財務、企業理念、SDGs 等の分析を行い、理解を深めます。年間のフィールドワークとして、ホテル、空港、旅行会社、鉄道などの企業訪問も予定しています。また、社会人や文教OBから、業界・企業の最新状況、4年生から、就職活動や卒論の助言の機会も設けます。</p> <p>4年生ゼミは、卒論の作成を最終目的として、活動を行います。春学期では、3年ゼミで学んだ、業界や企業の分析手法をベースに、先行研究調査を行い、論文のテーマを決めていきます。夏以降に、研究課題の仮説に対しての、現地調査等を行い、秋学期では、論文構成を定めて執筆をすすめ、中間発表を行いながら、12月下旬を目途に卒業論文を完成させます。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動は毎回参加が原則。ゼミ合宿も、企業研究と連動させるので参加が前提です。合宿や企業訪問に費用がかかります。
ゼミ履修に望ましい科目	旅行業論、トラベルビジネス論、観光マーケティング論 等
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	書類審査、面接等で決定します。ツーリズム産業の研究に興味があること。ゼミ活動を、チームで推進できる「コミュニケーション力」を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	面接、オリエンテーションを予定（別途連絡します）
代表的な卒業論文のテーマ	「MICEにおけるユニークベニユーの重要性」、「日本における医療ツーリズムの方向性」、「ポストコロナ後のワーケーションの成長性」、「都市部の空き家問題の解決方法」、「若者の早期離職の課題」等
所属ゼミ生（先輩）からの一言	前職 JTB である生田先生のゼミでは、主にツーリズムについて学びます。生田先生は私たち学生のやりたい！学びたい！をできる限り叶えてくれる先生です。ホテルや空港など観光にまつわるフィールドワークに行ったり、ゲストスピーカーの方が来てくださったりすることも多々あります。自分の将来が決まっていない方や理解学科の方も活動しやすく、有意義な時間を過ごすことができます。新卒採用の面接官のご経験があるため、就職活動の際はとても強い味方になってくれます。先生との面談も定期的にあるので信頼できる環境があります。ゼミ内での活動だけではなく、ゼミ合宿や、ご飯会などイベントもあります。私たちを第一に考えてくれる先生と一緒に残りの大学生活を素晴らしいものにしませんか？少しでも興味がある方はぜひ先生に会いに行ってみてください！

担当者名	生田 祐子 (いくた ゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	3423 (ゼミは 3302 教室・4 年は研究室を使用予定)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 時限と 5 時限 (4 時限は 3 年生・5 時限は 4 年生) ゼミ訪問ができる日: 9 月 29 日・10 月 6 日・10 月 13 日 (対面) 見学希望者は、できるだけ事前にメールください。
担当科目	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法 IV 基礎ゼミナール 応用ゼミナール 専門ゼミナール I~IV 多文化理解概論@文学部
研究室を訪問できる時間帯	対面では原則出講日の昼休みと空き時間ですが、オンラインでは柔軟に対応します。メールで希望時間を複数お知らせください。
ゼミのテーマ	<b>English for Global Engagement (国際社会とつながる英語力)</b>
ゼミの内容・メッセージ	英語教育・国際協力・一般企業など多様な分野において、国際社会とつながるプロフェッショナルな英語コミュニケーション力を養い、卒業研究の専門的なテーマを英語で解説できることが、このゼミの目標です。そのために英語による模擬国連や国際協働オンライン活動を通して、少し高度で実践的な英語を日常的に使用しつつ、「リンガフランカとしての英語によるグローバルな対話力」を鍛えるプチ留学のような英語体験ができます。 こんな進路に関心のある学生におすすめ: 大学院進学、国連や JICA のような国際機関やグローバル企業、国際理解の視点からの英語教育、日本語教育、メディア、通訳
ゼミの進め方	<b>3 年生: 英語を使うことを日常とし、英語で世界とつながる!</b> 1. 2024 英語模擬国連(JUEMUN)@岡山に参加: この会議のテーマは「平和の文化を育てる教育の役割」。(春学期) → 英語で資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. SDGs のゴールに関連する卒研につながるテーマを決め、国際学生会議でオンライン発表 (英語) する。(秋学期) → 春学期に鍛えた英語力をさらに強化します。 <b>4 年生: 卒業研究と英語を使う進路の開拓。</b> 国際社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力 (観光も含む) 分野等、個人のテーマは多岐に渡りますが、研究結果から社会へ提案できることを見つけます。日本語で執筆、発表を英語で行います (留学生は原則全て英語)。国際機関や教育機関でのインターンやボランティア、留学や大学院進学も支援します。
留意事項 (Requirement など)	1. 3 年次に「社会言語学」(春)「通訳入門」(秋)を履修 2. 英検準 1 級/TOEIC800 点以上を目標とし、応募時に CASEC600 以上が望ましい。(厳しい学生は事前に相談ください) 3. 海外研修、個人留学、ボランティア、インターンシップなどを積極的に経験し、卒業研究のフィールドを見つける。
ゼミ履修に望ましい科目	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論
定員	学外活動の人数制限があるため、9 名とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	英語による面接および CASEC・TOEIC・英検等の提出
ゼミ受入決定者への指示	決定後、対面またはオンラインで顔合わせをします。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』“Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリンガフランカになるための環境要因』“Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』→ 研究室で閲覧できます。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	模擬国連の 3 日間と準備期間の 3 ヶ月は英語力と問題解決能力がとても鍛えられました。困ったときにはすぐ手を差し伸べてくれるゼミ生や模擬国連で出会った他大学の友人等、英語を学ぶ素敵な仲間にもこのゼミの魅力です。(R.Y.)

担当者名	Dr. Andrew Enomoto (榎本 アンドリュー)
e-mail アドレス	aenomoto@bunkyo.ac.jp
研究室	3515
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 ((3 年生) 5 限 (4 年生)
担当科目	EIC 101, 102, 103, 104 英語表現 B 基礎ゼミナール 専門ゼミナール I,II,III,IV
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	American Minorities Studies
ゼミの内容・メッセージ	American Minority Studies provides a multidisciplinary analysis of the subordinate/dominant statuses of individuals and groups by recognizing the impact of race/ethnicity, gender, and socioeconomic class of individuals and groups in relationship to American society. The course is designed to foster critical analysis of the issues of difference in our society and to prepare students to understand and interact with people from diverse backgrounds and cultural perspectives throughout their lives. Art, literature, historical analysis, economic analysis, and/or music will be utilized to understand the cultural differences.
ゼミの進め方	Students go through several units throughout the course of each semester. Each unit covers a different minority group in the US. At the end of each unit students create small presentations and participate in discussions. The contents of each course will utilize several mediums such as textbook readings, news articles, YouTube videos, Netflix documentaries and original content. Students will also simultaneously be doing research and writing their final paper.
留意事項 (Requirement など)	Students who join this seminar should have a strong desire to learn English as all the materials will be in English. Students should also be willing and ready to write and present and discuss in English.
ゼミ履修に望ましい科目	As many English courses as possible
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	面接と英語の授業の成績
ゼミ受入決定者への指示	後日に Google Classroom のサインアップリンクを送ります。
代表的な卒業論文のテーマ	Any subject concerning minorities in the US. Previous students have written about “Importance of Queer Art” “American Education and Critical Race Theory” “Asian American Influence in American Culinary Culture”
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	アメリカについて知りたかったらアンドリュー先生のところへ！！アメリカ社会におけるマイノリティについて、現状、過去色々学べます。他の授業では得られない知識や見方もたくさん学べます。英語もわかりやすいので、ちょっと英語に自信ないな・・・と迷っている方でも大丈夫だと思います！！  私たちのゼミでは毎週楽しく、そして自由な雰囲気の中で学ぶことができます。また、今は少人数なので先生とたくさん会話したり意見交換することができるのも魅力です。とても学び甲斐があるゼミなので興味があれば是非検討してみてください！

担当者名	大森 一三
e-mail アドレス	omori013@bunkyo.ac.jp
研究室	3421
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限
担当科目	【春学期】哲学、新入生ゼミナール、応用ゼミナール、歴史哲学 【秋学期】外国史 A (西洋)、地域研究 A (ヨーロッパ)、西洋思想と国際社会、倫理学
研究室を訪問できる時間帯	出講日の授業と会議以外の時間 (月曜 4 限、水曜昼休み、木曜 3 限等)。日によって変わりますので、事前にメールでアポイントを取ってください。
ゼミのテーマ	哲学・倫理学を通じて時代社会を考える
ゼミの内容・メッセージ	<p>哲学・倫理学の研究を通じて、現代社会の諸問題を批判的に洞察し、その諸問題に対する自分の考えをまとめ、表現するための力を身につけることが本ゼミの目的です。哲学や倫理学、思想や宗教、さらには人間の心、生老病死、教育、技術、格差、さまざまな社会問題等に興味・関心がある方には、特におすすめです。</p> <p>また、社会科教員 (特に公民・倫理) を志望される方にとっても、専門教育として役立つと思います。</p> <p>なお、本ゼミでは自主性とそれぞれの問題意識を大切にしたいと思います。人生で密かに抱いてきた疑問やテーマや憤り (例:「生きる意味は何か」とか「神はいるのか」「なぜ、この世界はこんなに酷いのか?」「学校はいい場所と言えるのか」…等々) を各自の研究として昇華してゆくことができればと思います。</p>
ゼミの進め方	<p>年間に少なくとも 1、2 冊の哲学書を通読する予定です (現時点では日本語のものを読む予定です)。毎回、レポーターを定め、議論をしながら読んでゆきます。また、機会に応じて、参加者の卒論や個別研究テーマについての文献講読や議論の時間を設けてゆきます。</p>
留意事項 (Requirement など)	<p>哲学はあらゆる分野や問題意識とつながる学問です。多様な興味、関心を持った方の参加を歓迎します。ただし、本ゼミでは哲学書を読み、自分で文章を書くこととなりますので、思索だけではなく、読書や文章表現能力も必要となります。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	<p>必ずしも受講する必要はありませんが、「哲学」「倫理学」「歴史哲学」「外国史 A」を受講しておくことで授業理解に資すると思います。</p>
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	<p>志望理由書の提出 (状況に応じて、面談も実施します)。</p>
ゼミ受入決定者への指示	<p>ゼミ決定後に、全員で集まる日を定め、連絡します。</p>
代表的な卒業論文のテーマ	
所属ゼミ生 (先輩) からの一 言	

担当者名	海津 ゆりえ (かいづ ゆりえ)
e-mail アドレス	kaizu@bunkyo.ac.jp
研究室	3527
出講日	火、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目 (数字は開講セメ)	国際学入門①、持続可能な世界①、国際学 D⑤、地域プロジェクト演習 I・II③④、エコツーリズム論⑤、観光地域の創造と運営⑥、文教大学への招待①
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休みは研究室にいます。オンラインでの対応を希望される場合はメールでご連絡ください。
ゼミのテーマ	宝探し、エコツーリズムの実践を通して学ぶ、持続可能な地域づくり
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは、訪問先の自然や文化を守り伝える望ましい観光として 20 世紀後半に生まれた概念です。その真髄はその土地固有の自然や文化をきちんと理解し、伝え、守り、経済に結びつけて地域に還元すること。本ゼミナールでは宝探しとエコツーリズムの企画体験を通して、学生が持続可能な地域づくりの担い手になることを目指しています。足立区・草加市など身近な地域や、ゼミで長年関わってきた遠方の地域など、様々な「現場」に足を運び、調査、提案、実践、評価のプロセスを繰り返しながら「持続可能な地域づくり」とは何かを考えます。人と自然が好きで、まちづくりやフィールドワークに関心のある学生に適したゼミです。学生が主体となって活動する機会が多いので、積極的に動くことが求められます。
ゼミの進め方	<p><b>3 年次 (専門ゼミ I・II)</b></p> <p>【地元学】足立区と草加市をフィールドとした「地元学」を実施します。春学期は基礎調査、秋学期は基礎調査からの提案に基づき制作・実践を行います。</p> <p>【プロジェクト】ゼミとして関わり続けている地域におけるプロジェクトに参加し、テーマに基づいた研究をおこないます。災害からの復興をテーマとする岩手県宮古市および福島県磐梯地域、有名観光地の知られざる宝を掘り起こす神奈川県鎌倉市、廃校を活用した地域活性化に取り組む東京都八丈島、みちのく潮風トレイルなど国内各地がフィールドとなります。</p> <p>【一人旅】ゼミ期間内に必ず一人旅を行い、報告します。</p> <p><b>4 年次 (専門ゼミ III・IV)</b></p> <p>3 年次までの体験を生かし、卒業研究に取り組み卒論執筆を行います。</p>
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 年次の春休み中にプレゼミとして課題を出題します。</li> <li>・ ゼミ合宿や遠方での活動が多いため、フィールドワーク費用がかかります。</li> </ul>
ゼミ履修に望ましい科目	地域プロジェクト演習 I・II、エコツーリズム論 (5 セメスター)
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を行います。必要に応じてレポートを提出していただくことがあります。
ゼミ受入決定者への指示	全員決定の後、ガイダンスを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	自分の問題意識とテーマに適した“研究フィールド(地域)”を決めることが海津ゼミの卒論ルールです。地域活性化、伝統文化や災害の継承、自転車問題、オーバーツーリズム問題などテーマは多彩です。気軽に研究室に見にきてください。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	海津ゼミに入ると、旅行に行った時に地域の人と仲良くなれます！／今まで行ったことのない場所にたくさん行けます！／地域の宝探しを通じて、素敵な自然や人との出会いに楽しさを感じることが出来ます！／海津ゼミはエコツーリズムや地域活性化について研究していくゼミです。フィールドワークがとても盛んでアクティブなゼミですので、そういったことに興味がある方にはとてもおすすめのゼミとなっています！／アクティブに活動できて最高に充実感があるゼミ！／このゼミはかなりアクティブなゼミです。積極的な参加ができる人にはもってこいのゼミで、おすすめです！

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@bunkyo.ac.jp
研究室	3513
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4,5 時限
担当科目	法律学(第1セメスター)、日本国憲法(第2セメスター)、憲法学(第3セメスター)、法と行政Ⅰ(第4セメスター)、法と行政Ⅱ(第5セメスター)、国際化する社会の中の法(第6セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜昼休み～4限、水曜2限(第3週を除く)～昼休み、金曜2限～3限
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	<p>憲法学・行政法学の基礎知識を身につけるとともに、関連する社会問題について調べ、ディスカッションします。例えば入管・難民法の改正は在日外国人の人権保障に役立つのか、地方分権は地方自治を推進できているのか、子育て支援政策は貧困の連鎖を断ち切ることができるのか。これらはすべて憲法と行政法に関連する課題です。</p> <p>「今ここで起こっていること」を解くヒントを一緒に探してみましょ。上の例に限らずテーマの持ち込み大歓迎です。</p>
ゼミの進め方	ゼミは三つのパートから構成されます。第一のパートは、ゼミ教員の担当科目を履修し、授業で取り扱う重要判例の解説を担当することによって、憲法と行政法の基礎知識を身につけることです。第二のパートは、この基礎知識をもとに個々人の関心のある領域を深掘りし、発表とディスカッションを経て卒論に結びつけることです。第三のパートは、政策現場・事件の現場を知ることです。コロナ禍前までは自治体で実地研修を行ってきましたが、今年度からメンバーの興味関心に応じて新たに企画を立ち上げます。
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや学外研修への参加準備を3年生の春学期から始めてください。</li> <li>・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。</li> </ul>
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない。)
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	<p>「ヘイトスピーチと表現の自由」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」「外国籍の子どもたちへの行政的アプローチ」／「婚外子差別から見る戸籍・国籍の意義」「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」／「AIを用いた防犯と犯罪捜査」「自動運転の法問題」「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」／「性的マイノリティの人権」「女性労働者と法」「安楽死の可罰的違法性」「SNSにおける表現の自由」「GAFAM時代の消費者プライバシー」ほか／(今年度)「外国人の人権と多文化共生社会」「日本におけるジェンダー問題」「日本での同性婚の可能性」「世界的な人種差別への認識変化」</p>
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金井ゼミナールのいいところは、先生と私たち学生の距離が近く、何でも相談できる雰囲気です。授業のことや進路のことなど、先生が親身になってくださるおかげで、大学生活を充実できています。</li> <li>・ゼミと授業の両方で重要判例を担当するため、公務員試験や資格取得に非常に役立ちます。法学に興味のある人は受験レベルを超えて考えを深められる絶好の場という点が、金井ゼミの魅力だと感じます。</li> </ul>



担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@bunkyo.ac.jp
研究室	3518
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	EIC101、英語表現 A、翻訳入門、EIC201、EIC301
研究室を訪問できる時間帯	火4、水2
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is “Culture in Media,” and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, a new topic will be presented, followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least 450 in CASEC is strongly recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	English electives that focus on skills in writing and discussion, or as needed by the individual.
定員	10
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	

担当者名	久保庭 慧 (くぼにわ さとし)
e-mail アドレス	kuboniwa@bunkyo.ac.jp
研究室	3505
出講日	月曜、水曜、木曜
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生ゼミ)、5 限 (4 年生ゼミ)
担当科目	国際学入門、国際関係論、国際機構論、国際理解と法・政治 (法学分野)、国際人権保障論、応用ゼミナールなど
研究室を訪問できる時間帯	出講日の空き時間 (月曜：昼休み、5 限、水曜：2 限、昼休み、週によっては 3 限以降も可、木曜：昼休み、3 限) であれば基本的にいつでも可。ただし確実に期すのであれば事前にメールでアポイントをとって頂けると助かります。
ゼミのテーマ	法を通して「世界」を理解しよう
ゼミの内容・メッセージ	<p>このゼミでは、担当教員の専門である法学 (特に国際法) を分析の「めがね」として用いながら、世の中で生じている現象を眺め、考え、ゆくゆくはそれを最終的な成果物 (卒業論文) として形にすることを目指します。こうした目標を達成するために必要な能力を一から身につけるお手伝いをしたいと思います。派手な活動はありませんが、久保庭やゼミの仲間、先輩たちとの対話や議論の中でじっくりと思考を深めていく、そういう大学ならではの学問的な体験を重視したゼミにしたいと思っています。例えば次のような方にお勧めです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 何らかの久保庭の授業を受けて、全てではなくとも、何かしら特定の話題やテーマについて面白いなと思ったり、自分の興味関心のアンテナに引っかかったりした方、そしてそれらをより深めてみたい方。</li> <li>② 法学や国際関係に関心のある方はもちろん、法学自体にはそこまでの関心はないけど、社会的な問題を分析するための「視点 (ものの見方)」を身につけたい方。国際法は何でも分析の対象にできます。</li> <li>③ 今のところ法学に関心はないどころか、そもそも何に関心があるのかすらまだはっきり分かっていないけど、久保庭や他のゼミ仲間との学問的な「対話」に 2 年間付き合っても良いという方、大歓迎です (実はこの③に当てはまる方こそ一番おすすめかも)。ゼミで仲間と対話していくうちに、色々なことに関心が出てくると思います。</li> </ol>
ゼミの進め方	<p>★詳細についてはゼミ紹介のスライド資料を参照してください。</p> <p>3 年生の間は、各自の問題関心を踏まえて久保庭が選んできた短い文献を全員で読み進めます。その上でいくつかのグループに分かれ、みんなでホワイトボードに自由に「落書き」をしながら「問い」を立て、それをゼミ全体で共有し、あーでもない、こーでもないとじっくり議論しながらゼミを進めていくことを基本にしています (地味に見えますがとても面白い作業です)。また、年間を通して、現在関心を持っている話題 (時事問題から趣味に関する事など何でも可) を各々持ち寄って自由に議論する時間を時々設けています。</p> <p>夏休みには合宿を行います。今年はアイヌに関する調査・見学も兼ねて北海道に行きました。ゼミ生の関心にもよりますが、国内の世界遺産の見学などに行っても良いかと思っています。</p> <p>全体として、ゼミの仲間や教員と「議論」や「対話」をしながら考えを深めていく、というプロセスを大事にしたいと思っています。こういった時間は、大学という場所以外ではなかなか得られない貴重なもので、何よりとても楽しいものです。</p>
留意事項 (Requirement など)	まだ発足 2 年目の若いゼミです。一緒に試行錯誤しながらゼミを作っていきますよう。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ履修と並行する形で構いませんので、「国際理解と法・政治」「国際人権保障論」「国際機構論」「国際関係論」など、国際法関連科目の履修を勧めます。
定員	10 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後に、(個性的で楽しい) 先輩たちも交えて顔合わせの会合を開きましょう。詳細は追ってお知らせします。
代表的な卒業論文のテーマ	<p>基本的に何らかの形で法と結びつけられる問題であればどのようなテーマでも可です。現在 4 年生の先輩 (1 期生) たちは、「歴史認識」「自衛権・人道的干渉」「ジェンダーと家族」「ブラック校則」などをテーマとして卒論に取り組んでいます。</p> <p>この他、文化遺産の保護 (世界遺産、少数民族の言語・文化など)、SDGs、国際人権保障 (差別、子供の人権、外国人の人権、少数者の人権) なども守備範囲です。</p>

所属ゼミ生（先輩）からの一言	<p><b>★詳細についてはゼミ紹介のスライド資料を参照してください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・久保庭ゼミの特徴は、ゼミ生同士で議論する時間があることだと思います。大学で過ごす中で誰かと集中して1つの話題を議論することは貴重な体験です。私はジェンダーをテーマに卒論を執筆していますが、話のできる仲間がいることで、行き詰まった時もお互い助け合っていると感じています。「国際法」と聞くとイメージがつかなくて大変そうと感じるかもしれませんが、国際法は意外とどんなテーマにも繋がる面白い分野です。話をすることが好きな人にはとてもおすすめのゼミです！（国際理解学科4年生）</li><li>・英語教職を履修しています。社会問題に精通した英語教師を目指し、このゼミに入りました。ゼミではジェンダー問題や人権保障に関する事など、社会問題について幅広く議論しています。答えのない問いに対して議論することは簡単ではありませんが、ゼミメンバーの意見に毎回たくさんの刺激を受けています（国際理解学科3年生）。</li></ul>
----------------	--

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@bunkyo.ac.jp
研究室	3503
出講日	原則、月・水・木
ゼミの開講時間	3年生：木曜 4 限、4年生：木曜 5 限
担当科目	エアラインビジネス論、エアラインサービス論、観光交通論、テーマパーク事業論など
研究室を訪問できる時間帯	出講日 (月・水・木) の昼休みを中心に訪問時間を設ける予定です。日程等の詳細は別途お知らせします。
ゼミのテーマ	交通事業や交通政策に関する研究
ゼミの内容・メッセージ	交通事業 (航空・鉄道・高速バス・クルーズ船等)、交通インフラ (空港・道路・港湾等)、国内外の交通政策を主な研究対象とします。この他、新型コロナ、観光振興、環境問題、地方交通など、交通分野の横断的なテーマについても取り上げます。
ゼミの進め方	<p><b>3 年春</b>：交通事業や交通政策に関するテキストや文献を輪読し、交通に関する基礎知識を習得します。成田空港やゼミ旅行訪問先の事前学習を行います。</p> <p><b>3 年秋</b>：春学期の学習やゼミ旅行を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。また、学期末までに各自の卒業論文のテーマを決定します。</p> <p><b>4 年春</b>：卒業論文の作成に向けて研究計画の作成や文献収集などを行います。ゼミ内で数回の中間報告会を実施します。</p> <p><b>4 年秋</b>：卒業論文の作成を進めます。ゼミ内で数回の中間報告会と最終報告会を実施します。</p> <p><b>学外活動 (定例のもの)：</b>  3年春：成田空港と周辺施設 (空と大地の歴史館等) の見学  3年夏休み：ゼミ旅行 (国内・海外いずれの場合もあり)  3年秋：JAL 安全啓発センターと関連施設の見学 (羽田地区)</p>
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマには何かしら交通と関係するテーマを選択してもらいますので、<u>入ゼミ希望者には交通分野への関心や問題意識があることが最低限求められます。</u></li> <li>輪読テキスト代や学外活動の交通宿泊費など、ゼミ活動に際して一定の費用が発生します。</li> </ul>
ゼミ履修に望ましい科目	観光交通論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容と個人面接により選考します。 <u>選考に際しては「ゼミの志望動機」や「ゼミへの貢献期待度」を重視します。</u>
ゼミ受入決定者への指示	受入決定者に別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「スターフライヤーはなぜ高い顧客満足度を維持できているのか ～より多くの顧客から選ばれる航空会社を目指して～」 「航空会社はなぜ地方創生事業に力を入れているのか ～大手航空会社の事例から～」 「高齢者の移動環境を快適にしていくには ～群馬県における車の事故の分析から～」 「地方空港は「持続可能」なのか ～地方空港の自立した経営を考える～」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	<p>・小島ゼミでは航空から地域の交通問題まで幅広い分野について学ぶことができます。自分が今まで知らなかった情報などを他の学生と意見共有しながら学びを深めていきます。新たな発見があること間違いなしです。</p> <p>・鉄道や航空について自分が研究したいものを学べ、同じ仲間が居るので楽しいです。</p> <p>・小島ゼミでは交通機関について幅広く学んでいます。エアラインや鉄道に興味がある学生が多く集まっているため、将来に向けて仲間と一緒に頑張ることができます。優しくて学生思いの先生をはじめ、個性豊かな学生が集まる笑顔溢れるゼミです。交通に興味のある方は是非小島ゼミへ。</p>

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@bunkyo.ac.jp
研究室	3432
出講日	火、水、木
ゼミの開講時間	木曜4限(3年)、木曜5限(4年)
担当科目	国際理解とコミュニケーション(2)、異文化理解演習(2)、新入生ゼミ(1)、応用ゼミナール(3)、英語パフォーマンス(4)、英語とメディア(6)、IE101、英語科教育法Ⅲ、教育実習A
研究室を訪問できる時間帯	火、水の昼休み。火、木の2限など(事前にメールで連絡願います)
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法(即興、スピーチ、朗読、創作劇など)に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。地域の小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル(全国各地の大学が参加)での創作劇発表。ITを駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。海外の大学(台湾・タイ)との交流も実施(有志)し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマ手法の基礎(理論と実践)と、小学生対象の英語教育の計画・実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。絵本や童話を基にしたワークショップのマニュアル作成も実施。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。ファシリテーションの仕方を学びます。
留意事項 (Requirement など)	大学祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員(4年も協力)で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのためのゼミの時間以外での練習や合宿などもゼミ生で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。 主に夏期に国内外の大学生との英語による交流や合同合宿を行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。 小学生対象のイベントでは3、4年合同で準備・運営をします。4、5限通しの合同ゼミが各学期2~3回あります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語パフォーマンス、英語とメディア
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類(志望動機)と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。英語力や演劇の素養の有無は問いません。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。近隣の小学生たちと英語の楽しさを分かち合ったり、夏合宿で海外を含めた他大学の学生と英語で交流するのも刺激的です。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。

担当者名	清水麻帆
e-mail アドレス	mamizu31@bunkyo.ac.jp
研究室	3516
出講日	水・木・金
ゼミの開講時間	金 4 限
担当科目	【学部】観光政策論、観光資源論、国際観光論、新入生ゼミナール・基礎ゼミナール・応用ゼミナール・専門ゼミナール I～IV 【大学院】国際学特論、国際ツーリズム特論、観光行動特論
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日のお昼休みとします。必ず、事前にメールで連絡をしてアポを取ってください。
ゼミのテーマ	『文化と地域創生』 (担当教員の研究テーマ：文化を基盤とした維持可能な地域の発展)
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、地域の活性化や地域創生（地域の再生やまちづくり）を、文化を切り口として考えます。たとえば、ゼミで取り扱う「文化」は、音楽、ゲーム、アニメ、映画、小説、ドラマ、アイドルなどのコンテンツやポップカルチャー、文化イベント（芸術祭や音楽フェス、e スポーツ大会）、古民家、歴史的な建造物、文化施設、スケートボードパークから生活文化（島唄や礼祭）まで広義のものとし、また、ファンションやコンテンツ等の文化産業も対象とします。文化の保全・振興と経済効果とのバランスをどのように取って地域を活性化させるのかという問題に取り組みます。
ゼミの進め方	【3年生】主に下記の2つを柱として、ゼミを行います。 ① シティ・プロモーション/地域活性化のための企画：文化資源や地域資源を活用した商品開発の企画から情報発信までを行い、地域の人（事業者や行政）と関わりつつ、地域課題を実践的に解決することを試みます。 ② ゼミ研修に関する事前学修・研究：任意参加ですが、事前学習をします。今年度は、韓国ソウルのエリア再生について学びます。社会経済的な背景や地域再生の要因などを学修した上で、11月に実際に再生したカフェや文化的なスポットなどを巡り、現状と魅力を体験します。訪問先は関心事によって毎年変わります。 【4年生】 基本的に、卒業論文研究とその執筆になります。任意で、3年生と商品開発などに参加可能。研修旅行も任意ですので、参加可能です。 【3・4年生共通】 上記の研修旅行のほかに、福岡県の久留米大学とのゼミ交流を毎年行っています。隔年で福岡・久留米を訪問。今年度は久留米大学の学生さんが東京を訪問し交流、来年度は文教生が福岡・久留米大学を訪問して交流します。現地集合・現地解散。
留意事項 (Requirement など)	主体的・積極的に取り組み、互いに学び合い、語り合いながら、ゼミ活動の中で、自分の軸となる考え方や意見を持てるようになりましょう。また、行政や地域の人と関わりますので、真剣に地域に貢献したいという人を希望します。任意の研修旅行（コロナの状況により中止の可能性あり）は自己負担ですので、留意しておいてください。
ゼミ履修に望ましい科目	観光政策論、観光資源論
定員	10名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	基本的には、これまでの学習態度（成績）とし、必要に応じて面談を実施する場合があります。
ゼミ受入決定者への指示	特にありませんが、事前にお知らせがあれば、別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「音楽イベントを活用した日本の地域活性化のあり方と今後の展望」「ファッション産業における SDGs への取り組みと若者の消費動向」「日本における古着のファッション的価値の考察-消費・身体・メディアの3つの視座からの分析-」「地域振興におけるeスポーツの可能性」「日本のeスポーツ選手におけるセカンドキャリア問題について」「韓国コンテンツとファンの変容」「ホテルによる地域創生-NIPPONIA とホテル講の事例から-」「ロケツーリズムの持続可能性：誘致から一歩先の地域振興に繋げるためには」「日本プロ野球における女性新規ファン獲得のための戦略-ヤクルトスワローズを事例にして」「若者の SNS 映え意識による美術館運営の今後について」等

所属ゼミ生（先輩）からの一言	「自分達で決めて進めることが多いので、活動を通じてゼミ生同士でとても仲良くなれる環境である所が良いところだと思います」「清水ゼミでは、ゼミ生それぞれが、担当している地域のために何が出来るかを考えて活動しています。学生のうちにしかできない貴重な経験を積むことができ、やりがいがあります」「地域の課題解決、活性化に向け商品開発を行なっています。自分たちでアイデアを出したり、話し合いをする機会が多いので、グループワークが得意な人やアイデア豊富な人は、個性を活かして楽しくゼミ活動を行うことができると思います。2年生の皆さんに会える日を楽しみにしています!!」他メッセージは、グーグルのデータファイルを参照してください。
----------------	---

担当者名	菅原 周一 (すがわら しゅういち)
e-mail アドレス	suga8216@bunkyo. ac. jp
研究室	3522
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)。ただし、3, 4 年生合同のゼミや勉強会を開催することが多く、4, 5 限はゼミ時間として確保をお願いしています。
担当科目	新入生ゼミ (1)、応用ゼミ (3)、日本経済論 (3)、国際観光と企業分析 (3)、ファイナンス論 (4)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、毎週、月 (2 限、昼休み、5 限)、水 (2 限、昼休み)、木 (2 限、昼休み、3 限) ですが、ゼミ説明会を順次開催しているの、研究室訪問を希望されたい方は、上記メールアドレスに必ず連絡をして、アポを取るようになさいます。(事前予約された方を優先します。)
ゼミのテーマ	2つのテーマを中心にゼミ活動します。1つ目のテーマは、社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。(最終的なテーマは、ゼミ生の話し合いにより決定します。グループワークになります。) 2つ目のテーマは、企業分析で、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価します。
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、上記のような活動を通して、4年間の集大成に相応しい成果をまとめるとともに、並行して、社会人としての基礎力、応用力を身に付けることができます。ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができるように努めます。
ゼミの進め方	3年生の春・秋学期では、上記2つのテーマを中心に活動を行います (1人で2つのテーマを検討して頂きます)。1つ目のテーマは社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。検討するテーマは、ゼミのメンバーで相談した複数のテーマから、自分が関わりたいテーマを選び、数人のグループで検討、提案して頂きます。2つ目のテーマは企業分析です。具体的には、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価を各自で行い、その結果を全員で共有します。前後期30回のゼミで、1人10社程度の企業を分析するので、最後には全体で150社程度の企業を分析することになります。この作業を通して、1人1人の視野を広げ、いろいろな企業を見る目や就活に必要な企業分析の方法を知ることができます。 4年生の春学期からは3年生のゼミ活動の内容やこれまでの学びの中から生まれた問題意識 (社会課題など) を題材として卒業研究に取り組んでいただきます。具体的には、検討テーマ、社会的意義について、先行研究の調査を進めながら検討を行い、次に現状把握、問題点の整理、仮説の設定などを行います。最後に仮説の検証や結論、提案などをまとめて、パワーポイントの資料を作成して頂きます。秋学期では、春学期に検討した内容を再整理して、論文の執筆に入り、12月末を目標に卒業論文を完成させます。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に原則として必ず参加すること、協調的、積極的であることが必要です。海外ゼミ合宿 (ハワイで実施予定) も原則として全員参加して頂きます。その他、ホテル合宿なども実施予定です。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	できるだけ早く (12月中) 個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「アイデンティティの形成とファッション行動」、「これからの観光産業の在り方～ポストコロナを踏まえて～」、「日本における新しい LCC 戦略の提案」、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「ホスピタリティの源流と可能性」、「企業における従業員満足と顧客満足の関係性」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など。



所属ゼミ生（先輩）からの一言	菅原ゼミは勉強とイベントどちらも積極的に取り組みたい方におすすめです。企業分析では、分野を限定せず、多くの企業を知ることができ、サブプロジェクトでは、自分の興味のあることに主体的に取り組むことができます。BBQ やハワイ合宿、クリスマスパーティーなどの楽しいイベントが沢山あるので、ゼミ生同士の絆も深まります！TOEIC や SPI の勉強会などもあります。少しずつ就活の準備が出来るチャンスです！何よりも私たちは今とても充実しています！勉強面では互いにモチベーションを高めあい、目標に向かって日々努力をしています。ゼミ内のイベントではより仲を深め学生生活をより良いものにしていきます。このように人としての成長をさまざまな面から日々実感しています！ゼミ内容に不安のある人も大丈夫、寄り添ってくれる先輩や仲間、そして先生がいます！菅原ゼミナールでぜひ待っています！
----------------	---

担当者名	杉浦功一
e-mail アドレス	ksugiura@bunkyo.ac.jp
研究室	3419
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】政治学、平和学、国際理解と法・政治 (政治領域)、国際学入門、新入生ゼミナール、専門ゼミナール 【秋学期】政治学、国際社会の現状と課題、現代世界と国家、NPO・ボランティアの理論、基礎ゼミナール、専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜 4 限、水曜 2 限 (事前のメール予約が望ましい)
ゼミのテーマ	国際社会の問題について考える
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミは、政治学、国際関係論、平和学の視点から、国際社会の問題について理解を深め、同時に各人が関心をもつ問題について研究を進め、卒業論文に結実させることを目標とする。本ゼミは、外交、SDGs、貧困、紛争・戦争、民主主義・人権、地球環境、ジェンダー、国際協力、国連、外国の政治、NPO/NGO、移民・難民、外国人労働者、平和教育、国際観光政策など、日本を含む国際社会の問題に関心のある者を対象とする。
ゼミの進め方	ゼミでは、まず、報告の方法やレポートの書き方について説明する。その上で、文献の輪読などを通じて、政治学、国際関係論、平和学の研究アプローチを身に付け、いろいろな国際社会の問題に触れる。同時に、自ら関心のある問題について各自報告し討論を行う。その際には、インターネットの活用や文献検索など、資料や情報の収集方法についても学ぶ。映像を教材として利用することもある。また、機会を設けて、国際協力や国際政治にかかわるイベントへの参加や調査に行くこともある。
留意事項 (Requirement など)	ゼミの活動への積極的な参加とともに、多くの資料を読む意欲が求められる。また、2023 年度から始まったゼミなので、内容は固まっておらず、参加者ともに作り上げていくこととなります。
ゼミ履修に望ましい科目	必須でなく今後の受講でも構いませんが、政治学、国際社会の現状と課題、国際理解と法・政治、平和学、現代世界と国家
定員	12 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出による選抜。面談を行うこともあります。
ゼミ受入決定者への指示	決定後、顔合わせ等を行います。
代表的な卒業論文のテーマ	(2023 年度からの開講なのでまだありません)
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	

担当者名	杉山富士雄
e-mail アドレス	sugiyama@bunkyo.ac.jp
研究室	3416
出講日	在外研修中
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年次)、金曜日 5 限 (4 年次) 変更の可能性もあり。
担当科目	経済学、産業組織論、企業の競争戦略の経済学、食と農の経済学、観光の経済学
研究室を訪問できる時間帯	まず gmail で連絡下さい。その後、面談の日時を相談する。杉山の署名は、学部事務室で押印してもらうようにお願いします。
ゼミのテーマ	競争戦略論で読み解く観光業界・企業
ゼミの内容・メッセージ	卒論で研究して欲しいテーマは以下の通り。但し観光業界全般も可能 B 級グルメで地域活性化の問題点 JR 東日本の駅ナカビジネス インバウンド一極依存の観光ビジネスの崩壊 ビーン・ツー・バーのチョコ専門店とサード・ウェイブ・コーヒー 居酒屋の苦戦と焼き肉業態への転換 コロナ禍の外食産業の苦戦と新ビジネスの抬頭 ワイン・ツーリズム (仏・伊・米国) とバスク美食巡り
ゼミの進め方	学生の自主的な研究を重視しますが、ゼミの発表は、できるだけ現場調査し、文献データを現場調査で得た感覚から再確認。その上で改善提案を検討する。3 年次はポーターの『競争戦略』を読み解く。
留意事項 (Requirement など)	新型コロナの影響で、この 2 年間はゼミで学外調査が実施できなかったが、2017 年から 2019 年にかけて石和温泉と桔梗屋工場、横須賀カレーとペリー記念公園、宇都宮餃子と大谷石の採掘場、富岡製糸場と長瀬、静岡市登呂遺跡と富士山静岡空港などの学外調査に出ていた。2023 年は学生の希望を聞き、学外調査を実施予定。
ゼミ履修に望ましい科目	私が担当する上記科目
定員	9 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類審査と面接
ゼミ受入決定者への指示	3 年次ゼミが始まる 4 月前に、飯田泰之「地域再生の失敗学」光文社新書と藻谷浩之・山田桂一郎「観光立国の正体」新潮新書を読むこと。
代表的な卒業論文のテーマ	テーマパークの経営比較 (2016 年)、ペリー来航とみなとみらい地区の歴史 (17 年)、富岡製糸場 (17 年)、湯河原温泉街の活性化 (2017 年)、ベイスターズの経営再生 (18 年)、中国人爆買い終焉 (2018 年)、真珠養殖の歴史と田崎真珠 (18 年)、B 級グルメ (宇都宮餃子、生馬麩、富士吉田うどん) と地域活性化、越後湯沢の温泉街活性化 (19 年)、横浜ハンマーヘッド (20 年)、タピオカミルクティーのブーム終焉 (20 年)、日本人とラーメン (20 年)、ケンタッキーフライドチキン 500 円ランチの衝撃 (20 年)。みなとみらい・鎌倉観光、北千住の昭和カフェ、コロナ禍のホテル宴会需要、無印カフェの社会貢献、池田町ワイナリー巡りなど内容多彩。

担当者名	孫 美幸 (そん みへん)
e-mail アドレス	sonmihen@bunkyo.ac.jp
研究室	3521
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限・5 限
担当科目	基礎ゼミ、専門ゼミ、国際学入門、多文化社会と共生、開発教育論、国際学 A、国際理解とコミュニケーション、多文化交流特論 (大学院科目)
研究室を訪問できる時間帯	上級生と直接話せる機会を設定し、専門ゼミの時間に見学可能な日を作ります。詳しくは、 <b>Google Drive</b> にある予定表を見てください。
ゼミのテーマ	ホリスティックアプローチを通して、平和な未来、多文化共生社会を描く。 ～自分の将来につながる、共生のスキルを身につけよう！
ゼミの内容・メッセージ	「ホリスティック」というコンセプトには、「つながり」「包括性」「バランス」の 3 つの特質があります。多様な背景をもつマイノリティの人々に寄り添いながら、人が人を支え育み、共に成長する社会や教育のあり方を考えていきます。そして、そのような社会を目指して、自分自身の思いを伝え、他者の意見を受け止め、自身の具体的な活動や企画につなげられる「深い変容」を伴う共生のスキルを身につけましょう。 このゼミでは、ゼミ生の卒論テーマを見ればわかるように、それぞれの関心領域から、多文化共生社会や平和な未来を考えていきます。担当者による発表やディスカッションを行い、関連するゲストとの交流、海外の学生との交流もしながら、関心テーマを深め、自分の卒業後の進路や活動へとつなげていきます。
ゼミの進め方	<b>【3 年生春学期】</b> ホリスティックアプローチに関わるゲストとの交流をしながら、フィールドに出て、体験的な活動を重ね、自分の関心テーマを探していきます。毎年集まってくるメンバーによりゲストも様々です。 <b>【3 年生秋学期】</b> 自身の研究テーマを決め、卒業論文の基礎固めをしていきます。韓国や台湾の学生たちとのオンライン交流、ゲストとの交流やフィールドに出る機会を創って自分の将来像ともつなげていきます。 <b>【4 年生】</b> 昨年度までの研究をもとに、卒業論文の執筆を行っていきます。また、卒業論文を自分の生き方の軸の一つとなるように整理していきます。 <b>【夏休みや学期中】</b> 毎年ゼミ生の希望により異なります。この数年は海外との交流はオンラインで行い、国内で宿泊をともなったゼミ旅行とフィールドワークをしたり、関東近郊に日帰りで異文化理解や多文化共生をテーマにした場所を訪れたりしました。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動として年間で行っているフィールドワーク (この数年は国内) について、自身の予定調整や経済的なこと (宿泊の場合は場所により数万円) を準備すること。
ゼミ履修に望ましい科目	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類と面接で選抜します。関心のあるテーマとの合致性やゼミ活動への参加意欲などで判断します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、3・4 年生と一緒に顔合せ会を行います。その際、4 月までにやっておくことなど予定をお話します。
代表的な卒業論文のテーマ	<b>【今年度 4 年生が取り組んでいるテーマ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の性教育の安全性の高い実用化に向けて</li> <li>・環境的要因による犯罪をなくすために必要なこと</li> <li>・アニメーション作品が観光復興に与える影響</li> <li>・日本の大学生における自己肯定感低下の要因と解決策の提案</li> <li>・K-pop の世界的な人気と人権侵害の関連性</li> <li>・なぜ誹謗中傷は起きるのか - 文化・社会的背景から考える</li> <li>・中華圏の親子関係における共依存問題の考察</li> <li>・高敏感者を重視した教育によるうつ病予防</li> <li>・日本社会における HSP の性質、そして対処法</li> <li>・「普通」「常識」から考える日本人の同調圧力</li> <li>・環境問題から考察する共存のあり方</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライブ・コンサートを利用した日本における地域活性化</li> <li>・サステナブルファッション～服を通して環境を考える</li> <li>・日本の英語教育の課題と今後 ・現代日本から考察する多数決</li> </ul>
所属ゼミ生（先輩）からの一言	<p>孫ゼミは課外での活動が多いというイメージがあり、私自身も魅力に感じていた部分のひとつであったので、春学期にたくさん活動できて良かった。そんな活動の数々があったからこそ、成長できた部分としてあげられるのは、「自分たちで機会を作る」という力である。どうにかして私たちがやりたい活動を実現させようという試みや、どのようにすればこの活動がうまくいくのかといった話し合いを通じて、今学期の活動を成功させることができたと思う。機会を待つ側から機会を作る側に思考を転換できたことがひとつの成長点である。(理解学科3年 向田奈々花)</p>

担当者名	種村 聡子 (たねむら さとこ)
e-mail アドレス	stane@bunkyo.ac.jp
研究室	3504
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 限目 (3 年生)、金 5 限目 (4 年生)
担当科目	ホスピタリティサービス論、国際観光とホスピタリティ、国際人材マネジメント論、ホスピタリティ演習 C (エアライン) など
研究室を訪問できる時間帯	メールにてご連絡ください。
ゼミのテーマ	ホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	ゼミでは、ホスピタリティの概念を経営に取り入れている企業や組織に焦点を当て、顧客満足と従業員満足、従業員の行動と管理、人材育成について学びます。例えば、従業員のホスピタリティ行動が顧客に与える影響、人材育成の際に必要な支援は何かなどを検討します。文献で得た知識が実社会でどのように生かされているのかをアルバイト先やフィールドワークで確認し、レポートにまとめてもらい、発表します。主に企業活動を取り上げますが、ホスピタリティの概念を学ぶことは、広く社会生活でも役に立つと思います。周囲の人と発展的な関係を築いていくための過程を探求したい人は、ぜひご検討ください。
ゼミの進め方	<p>【3 年春学期】ホスピタリティ・マネジメントの教科書を輪読し、ホスピタリティに関する基礎知識を得ます。並行して、チームに分かれてプロジェクトを進めます。プロジェクトでは、チームごとに企業を選び、その企業が提供するサービス (商品) を調査したうえで、顧客が体験する経験を可視化したマップを作成します。</p> <p>【3 年秋学期】ホスピタリティに関する論文を読み、議論します。チームプロジェクトでは、従業員と顧客の行動を調査し、企業の課題と対応策を検討します。年度末には他大学との研究発表会を開催する予定です。</p> <p>【4 年春学期】卒業研究のテーマを決め、研究計画書を作成します。</p> <p>【4 年秋学期】卒業研究として、論文を執筆します。</p>
留意事項 (Requirement など)	夏休みの合宿 (2023 年度は石川県) やフィールドワーク (羽田空港) を予定しているため、費用が必要です。合宿とフィールドワーク先はゼミ生の希望を聞き、調整します。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光とホスピタリティ、観光サービスなど
定員	15 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	Zoom による面接と書類審査により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	Zoom での個別面接と対面での顔合わせ会 (1 月末予定) を実施します。実施日時は別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「旅館のおもてなしに関する研究—外国人観光客に対する接客」、「人に好感を持たせる第一印象」、「サービスとホスピタリティの違い—求められるホスピタリティはコロナ過で変化するの—」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	このゼミナールは、元 ANA の客室乗務員だった種村先生とともにホスピタリティ・マネジメントについて研究します。エアラインやホテルなどといったサービス業に興味のある人やまだ何をやりたいか決まっていな方、幅広い分野を視野に入れてホスピタリティ・マネジメントについて研究できます。サービス業のフィールドワークを行うため、多くの企業を知ることも可能です。

担当者名	千葉 克裕 (ちば かつひろ)
e-mail アドレス	ch1ba@bunkyo.ac.jp
研究室	3526
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	上級リーディング, 多読多聴演習, 英語学概論, 心理言語学
研究室を訪問できる時間帯	昼休み、オフィスアワー(火2限5限・水2限・木2限)にどうぞ。 木曜のゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	効果的に外国語を身につけるにはどうすれば良いのか？ —第2言語習得理論の理解と学びの実践—
ゼミの内容・メッセージ	第2言語習得に成功する人はなにが違うのでしょうか？この問いに答えるために、まずは <b>自分の英語力をしっかりと磨き</b> 、そのプロセスを通して「なぜうまくいかないのか？どうしたら効率的に身につくのか？」、 <b>第2言語習得の仕組みについて学び</b> 、その気づきを生かして英語力を高める効果的な学び方や教えるための技術を身につけます。 また、読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法（マインドマップ）など「 <b>学び方を学ぶ</b> 」ことにも重点を置きます。将来の仕事にかかわらず、自分の好奇心に従って問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養います。 高い英語力と根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、「 <b>将来英語を使って仕事をしたい人</b> 」や「 <b>理論に基づいた英語教育をしたい人</b> 」の参加をお待ちしています。 ”自ら学び、ものを考える人になろう！”
ゼミの進め方	<b>3年春学期：基礎的研究力の育成</b> ・新しいノートの取り方(マインドマップ)を学び、新しい思考法を身につける ・本の読み方(速読法)とまとめ方・発表の仕方を学ぶ ・新書をたくさん読みながら読書力と教養を蓄える ・語彙力と文法力を強化する(目標 TOEIC650点) <b>3年秋学期：研究のためスキルアップ</b> ・第2言語習得研究(SLA)の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索する ・研究の方法を学ぶ(問いの立て方・文献検索の仕方・情報整理の方法など) ・先行研究論文のレビューとゼミ発表を通して議論する力を養う ・多読・音読・を通してスピーキング力を高める ・発音の矯正と長文読解力の養成(目標 TOEIC700点) <b>4年：卒業論文の作成</b> ・自己の英語学習の気づきから研究テーマを決定し、卒業論文の作成に取り組む
留意事項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けるようにしてください。 ・ゼミ合宿(国内)と Mindmap®講座は全員参加でお願いします。
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、英語音声学、英語表現、心理学、統計学など
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	TOEICを受験し(IPも可)、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「多読学習者の読解速度についての考察」「動機づけの原因帰属理論」「語彙学習における効果的な学習方略」「日本人の語用論的能力の育成」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	千葉ゼミでは、学び方を学び、自立と自律ができるようになります。教育・英語・脳科学・思考、それぞれに研究に基づいた専門的な知識によって、英語をより良く学ぶ・教える、より効率良く思考するにはどうすれば良いかなど深く学ぶことができます。またその先の、自分でどう学び続けるか、自分をよくしていくかということを論文や書籍、マインドマップを活かした論理的思考によって学んできました。 さらに、質を大切にする千葉先生はただ教えるのではなく、私たち学生一人一人と対話し、必要に応じたアドバイスで、学生が主体的に学ぶことを助けてくれます。千葉ゼミでの2年間にわたる学びのおかげで、私の学習の興味や質は、圧倒的に広く深いものになりました。言語や英語に興味がある方、教員を目指している方、自分を見つめ直して深く学びたい方、ぜひ千葉ゼミと一緒に成長しましょう。

担当者名	利根川 由奈
e-mail アドレス	cruela53@bunkyo.ac.jp
研究室	3529
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 (3年生)、金 5 (4年生)
担当科目	観光と交流、交流文化論 B、文化政策論、アートマネジメント論、地域開発とミュージアム、新入生ゼミ、応用演習、専門ゼミ (春) 交流文化論、基礎ゼミ、専門ゼミ、地域文化マネジメント特論 [院] (秋)
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールでご連絡をお願いします。
ゼミのテーマ	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する
ゼミの内容・メッセージ	具体的なコンテンツや場所、美術作品を検討対象として、観光や交流文化、地域文化におけるそれらの位置づけや、社会におけるそれらの役割、文化のマネジメントなどについて考えたい方を歓迎します。私の守備範囲としては、美術史 (現代美術やミュージアム、展示を含む)・文化政策史 (主に 20 世紀～現代ヨーロッパ・アメリカ・日本)・表象文化論 (映画、MV、広告、ファッションなど) になります。 私はゼミ生のみなさんに、ゼミ生の意見や文献、実地体験によっていかに自分の考えを発展させ、現実的な着地点を見つけることができるかを学んでほしいと考えています。興味のあるトピックがあるけれど悩んでいる方がいましたら、ぜひ相談してください。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ生による話題提供：担当者を決めて、簡単な話題提供をしてもらい、それをもとに全員でディスカッションします。</li> <li>・展覧会見学：ゼミ生で話し合い、行く場所を決めます。2021 年度は国立新美術館、THE TOKYO TOILET、2022 年度はスコットランド国立美術館展 (東京都美術館) に行きました。</li> <li>・アートマネジメント団体との協働：地域にアートマネジメントがどのように根付いているか、どのような活動をしているか、を実際に体験してほしいと考えています。アートアクセスあだち、東京都現代美術館との連携を考えています。</li> </ul>
留意事項 (Requirement など)	<p>*利根川ゼミ志望の方には、「志望理由書」とこれまでの成績を提出していただきます。面談時にご持参ください。</p> <p>*利根川は 2023 年度いっぱい育休です。三井麻央先生に代講していただきます。2024 年度から利根川が復帰します。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	「交流文化論」、「文化政策論」、「アートマネジメント論」
定員	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談・志望理由書・これまでの成績の総合評価で決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後にご連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	建築 (西澤立衛と十和田市現代美術館)、ファッション (ストリート文化とファッション、シャネルの流行史) など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「アットホームでみんな仲良いです！」(4 年生)「やりたいことがある人は、提案すればたいていやれます」(3 年生)「毎回ディスカッションの時間があるので疲れますが視野が広がります」(3 年生)



担当者名	中井治郎
e-mail アドレス	jiro@bunkyo.ac.jp
研究室	3531
出講日	火水金
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	「社会学」、「観光社会学」、「消費者行動論」など
研究室を訪問できる時間帯	オフィスアワーは火 4、金 5 ★ゼミ説明会を別途開催します。参加方法・開催日時などは google ドライブの資料を参照してください（志望者は参加必須）。
ゼミのテーマ	「文化遺産と観光」
ゼミの内容・メッセージ	世界遺産をはじめとする日本の文化遺産は世界的にも評価の高い有力な観光資源として多くの観光客を惹きつけてきました。しかし、一方でマナー違反や混雑などのオーバーツーリズムが問題となるなど、課題が多いことも事実です。またこれまでは注目されていなかった建物やモノに新たな視点から文化遺産的な価値が見出されることもあれば、VR ツアーなど新しい形態での観光も台頭しています。そこで本ゼミでは荘厳な寺社やレトロな古民家カフェ、そして廃虚ツアーまで様々な角度から、古いものを「受け継ぐ」事と新たに「楽しむ」ことの調和を模索したいと思います。
ゼミの進め方	<b>【3 年次】</b> ゼミ全体でひとつのフィールドを設定して、調査・研究を行い、各学期末に報告書を提出します。フィールドとしては歴史的な文化遺産の多く残る街を想定しています（2023 年度は日光市）。ゼミ全体で行うフィールドワークは年に 2～3 回を予定していますが、フィールドは「ふと思いついたら次の週末にすぐに行ける距離」に留意して設定しますので、個人でも通うことは可能です。  <b>【4 年次】</b> 3 年次に研究したテーマを踏まえて（場合によっては踏まえなくても OK ですが）、個々人で卒論テーマを決めて研究と執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	フィールドワークでは交通費と宿泊費が必要となりますが、関東近郊を予定していますので、いずれも数千円程度になる見込みです。
ゼミ履修に望ましい科目	「観光社会学」
定員	10
選抜を行う必要性が生じたときの方法	ゼミ説明会での聞き取りや書類などにより審査します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、顔合わせを行います。日時は追って連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	本ゼミは 2023 年度から開始のためまだ卒論は提出されていませんが、現在の 3 年生は世界遺産を擁する栃木県・日光市の観光についての研究を行っています。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	「自分でテーマを選択しながら研究を進めていくため、まだゼミの研究テーマが決まっていない学生や、フィールドワークを行いながら観光地のリアルな声を聞きたい学生などにおすすめです」 「フィールドワークを通して観光地の現状や問題の深刻さを実際に自分の肌で感じることで、自分が何に対して興味があるのかを知ることができ、さらに興味のある事に対してとことん追求できるこのゼミでの経験はガクチカでも大きな強みになると思います」

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@bunkyo.ac.jp
研究室	3525
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 5 限ではなく 2 限に変更の可能性あり
担当科目	新入生ゼミ、応用演習、生態学、観光とソーシャルビジネス、国際観光とサステナブルデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日 2 限とお昼休み、水曜日はメールにて面談時間のアポイント必要、木曜日は昼休み、その他の日時はメール相談で面談またはオンライン対応
ゼミのテーマ	*サステイナブルなツーリズムと地域ビジネスづくり *ヘリテージ (地球の遺産) を次世代へ残すプロモーション *農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 *ヘリテージ・インタープリテーションの実践 「知る・調べる→創造する→伝える→つなぐ→解決行動」
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミでは、観光地のヘリテージ (自然・伝統文化・文化遺産・生活慣習) に対し、地域社会に密着したゼミ活動で学生自らが深く理解し、ビジネスやガイド、メディアで伝え、さらにそれを持続可能な形でまもっていくことを実現することを目的とするゼミです。黛ゼミのフィールドはバリ島、軽井沢、高山と多岐にわたりますが、主軸はバリ島です。3 年時にはゼミ生全員でバリ合宿に行きます。黛ゼミの学生はバリ島現地の大学生や外国人居住者と触れ合う異文化コミュニケーションの機会を多く持ち、また、自然環境、伝統文化、生活慣習などの多くの課題を直接見て知り、バリ島の持つ大切なヘリテージへの本当の理解者を増やす流れを作るビジネス研究を行います。つまりは社会貢献事業、アントレプレナーシップを学びます！今後ますます期待される分野です。3 年生での学びを軸として、卒業研究へと進みます。地球と観光発展にとってのサステイナブルツーリズムを主題として、地域ビジネスを一緒に育てていきましょう！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論の学び]=授業で受講 [インタープリテーション実践の学び]=ゼミ活動で実践 *3 年時：バリ島学習と合宿・ヘリテージへの訪問とガイド実践 *4 年時：フィールド調査や実験を用いた卒業論文を書きます
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、そして、体力のある学生さんをお待ちしています。学外活動では全員が交通費や宿泊費が必要です (軽井沢 2 万円・バリ島 17 万円 10 泊・高山 2 万円など)
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)、観光とソーシャルビジネス、はゼミ生全員必ず受講。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接を実施する。(対面またはオンライン)
ゼミ受入決定者への指示	決定後にオンラインで顔合わせ会の実施。3 年生直前の春休みに合宿もしくは事前学習会の実施
代表的な卒業論文のテーマ	農村観光ビジネス研究・地場産業の商品開発とブランディング研究・伝統芸能の持続可能な観光研究・メディアツールの制作研究など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	黛ゼミナールは、1 年を通して様々な課外活動が行われるとても活発的なゼミナールです。夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになりました。黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。ビジネス作り、伝統文化・自然や人との交流が好きな学生におすすめしたいゼミナールです！

担当者名	丸山 鋼二 (まるやま こうじ)
e-mail アドレス	maruyama@bunkyo.ac.jp
研究室	3523
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	【春学期】 応用演習、中国語 I、歴史学、地域研究 G(北東アジア・極東ロシア)、東アジアの共生 【秋学期】 外国史 B(東洋)、中国語 I
研究室を訪問できる時間帯	出校日である火・水・金曜日の昼休み等。希望者は事前に上記のアドレスにメールにて連絡をお願いします。
ゼミのテーマ	「東アジアの多文化共生を考える」
ゼミの内容・メッセージ	<p>ゼミの中心テーマは、東アジアの日本・中国・朝鮮韓国において、さらには東南アジアやインド洋諸国を含めたアジア・太平洋地域において多文化共生をいかに構築していくかという実践的な課題です。東アジアでは経済的な相互依存関係が深まっているにもかかわらず、領土問題や戦争責任問題等で摩擦がしばしば発生する日中・日韓関係、あるいは南シナ海に軍事進出する「中国の台頭」、こうした問題をいかに解決していけば摩擦を少なくし友好を深めることができるのかを考えていきます。</p> <p>まずアジアの最新情勢を追いながら、そこにどのような問題・課題があるのか、その解決のためにはどうすれば良いかを学ぶことから始めます。そして、日中韓関係やアジア・太平洋地域の現状とこれまでの歴史を学ぶだけでなく、多文化社会を掲げている米国やカナダ、オーストラリア、EU などの事例、世界の民族紛争・人種問題やその解決方法(平和構築過程や民族政策など)、また身近なはずの日本政府・東京都・足立区などの外国人(移民・難民)政策と現状を知っておくことも理解と実践に役に立ちます。</p> <p>サブテーマは日中韓関係、北朝鮮問題、香港・台湾問題、日本のアジア外交、アジア共同体論、地域経済圏(ASEAN、TTP、RCEP など)、異文化理解・異文化交流、比較文化論、民族紛争、少数民族問題、人種差別問題、国際和解学(平和学)、貧困・格差・差別等です。</p>
ゼミの進め方	<p>3年次：共通文献の輪読・発表、質疑応答 同時にアジアの最新情報に関する発表</p> <p>4年次：前期は共通文献の輪読・発表、質疑応答 各自の問題意識と知的関心に基づき卒業論文を執筆・作成</p>
留意事項 (Requirement など)	「現在の世界と日本を知り、これからの社会を生き抜いていこう」という意志を持った学生諸君の参加を期待します。留学生の皆さんも歓迎します。できればアジアの歴史を知る study tour にチャレンジしたいと思います。
ゼミ履修に望ましい科目	文化人類学、英語音声学、民族の歴史と世界、平和学、地域研究、外国史 B (東洋)、多文化社会と共生などを推奨。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	所属学科や領域に関係なく希望者全員と面談。自分の関心のあること、いま感じていること、どんなゼミにしたいか、将来の希望、自己アピールなどをお聞きします。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後に指示を行ない、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	<p>各自の問題関心に従って卒業論文を書いてもらいます(SDG s に沿ったものを推奨)。</p> <p>代表例：「戦後補償問題をどのように解決するか」「東洋医学について考える」「台湾</p>

	独立問題」「インドネシア華人問題」「祖母の満洲時代」「チベットの行方」「中国の人口問題」「日中韓の教育と、そこから見る歴史」「東アジアの環境協力」「日本のメディア記者クラブのあり方について」「中国の歴史的過程と新民主主義」「非営利組織のマーケティング」「中国の環境問題(日本と中国のゴミ処理)」
所属ゼミ生（先輩）からの一言	「私は中国から来た留学生です。歴史研究や中国の対外関係に関心を持っていて、別の視点から研究していけば面白いかなと思い、丸山ゼミに入りました。ゼミでは、自分がやりたい分野について先生が親切に指導してくれますし、論文の書き方も丁寧に教えてもらっています。」

担当者名	本浜 秀彦 (もとはま ひでひこ)
e-mail アドレス	motohama@bunkyo.ac.jp
研究室	3514 (北棟 5 階[花瀬橋/「東京ひよこ」工場側])
出講日	2023 年度 (春学期) 火、木、金 (秋学期) 水、金
ゼミの開講時間	【2024 年度予定】3 年生：木 4 限、4 年生：木 5 限 *3 年、4 年合同で撮影やワークショップなどを行うことも多いため、木の 4, 5 限はゼミの時間として確保をお願いします (授業回数は調整します)。
担当科目	「国際理解と文化」、「日本ポップカルチャー論」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	ざっくりした予定は、水曜 11 時ごろ～お昼休み時間、金曜 11 時ごろ～お昼休み時間、および金曜 4 限のゼミ (「授業参加型」)。日にちを含めた詳細は追って掲示します。
ゼミのテーマ	<b>視覚文化論 (映像と身体)</b>
ゼミの内容・メッセージ	<p>ゼミのテーマを、現3年ゼミ生から、担当教員の研究の新たな方向性に合わせ、映像と身体に注目した視覚文化論(映像と身体)に設定—ありていに言うと映画(映像)を制作する「シン・本浜ゼミ」に様変わりしました (現4年生の希望者も合流しています)。具体的には以下のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画 (映像) 作品の分析 *アニメ作品は対象としません。 海外や日本の映画作品を、まずは観て楽しみ、続いて「深掘り」することで、世界の国々や日本の歴史、文化、社会などを学びます (「国際理解と文化」を受講した学生は、英国の歴史や社会や文化を映画から読み解いた授業をイメージしてください)。併せて映画研究の諸理論についての知識や理解を深めます。そのため映画を数多く観てもらふことになります。</li> <li>・映画 (映像) 作品 (フィクション/ドキュメンタリー) の制作 本ゼミで、映画 (映像) 作品を制作します。もっとも教員は、映画に関する論文・評論は文学研究の関連から数多くあるものの、映画作品の実際の企画、制作については現在「勉強中」。撮影・映像編集の技術については、教えるというよりも、ゼミ生と共に学び、撮影に詳しい学生には手助けをしてもらいながら—となることを了解ください。教員の撮影および映像編集の技量の不足は、映画監督を招いた授業や、学外の映画・映像関係者のサポートなどで補います。映画の制作にあたっては、メインのキャストもゼミ生がつとめるため、劇団の俳優らを招いた演技指導なども行います。 撮影機材を特別に用意する必要はありません (私の研究室で少しずつ揃えています)。何といたっても今は、スマホで撮影した動画で劇場映画をつくることのできる時代。重要なのは、<u>時代とシンクロし、現代社会が抱える問題と対峙できるかどうか</u>、この時代を生きる人間をどう捉えることができるか、ということ。映像関係の学部・学科ではなく、国際学部で映画 (映像) を制作する意義もそこにあると考えます。 映画や物語を、消費するだけでなく、つくる側に回りたい人、自分の考えや感性を映像やことばで表現したい人、演技など身体表現に関心を持っている人はぜひ「シン・本浜ゼミ」の扉を叩いてください (ゼミは、今まさに変貌を遂げている最中。試行錯誤の連続ですが、手ごたえを感じています。)</li> </ul>
ゼミの進め方	上の欄をご覧ください。
留意事項 (Requirement など)	<p>映画の歴史や理論を学ぶ「座学」に加え、演技の稽古、映画の撮影や撮影のための「ロケハン」などのフィールドワークあり。撮影や映画祭参加を兼ねたゼミ合宿も行いたし。映画制作にあたっての役割は多岐にわたります。自分は何をやりたいか、何ができるのか・できそうなのか、研究室訪問時に聞かせてください。 (<b>映画を観ると眠くなる人にはまったくおススメできないゼミなので注意を!</b>)</p>
ゼミ履修に望ましい科目	「日本研究 A」、「日本研究 B」、「国際理解と文化」など
定員	10 人 (現 3 年ゼミ生の在籍数は 13 人)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接 *予めアンケートにこたえてもらった内容をもとに実施します。
ゼミ受入決定者への指示	追って連絡
代表的な卒業論文のテーマ	<p>「日本研究」がテーマのときは、現代日本の化粧文化、女子トイレ文化論、ドキュメンタリードラマと方言、日本の男性アイドル論などの論文がありました。 「シン・本浜ゼミ」では、ゼミ生が制作した映画 (映像) 作品に加え、制作にあたっての企画書、シナリオ、報告書などを提出してもらいます。</p>

担当者名	八木 良太 (やぎ りょうた)
e-mail アドレス	yagi@bunkyo.ac.jp
研究室	3536
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限
担当科目	国際観光とビジネス、プロジェクトマネジメント、現代資本主義と企業経営、観光ビジネスプロジェクト演習 I・II、経営学など
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休みと空き時間に対応しますが、事前にメールで連絡をください。
ゼミのテーマ	サービス関連企業の経営戦略とマーケティング
ゼミの内容・メッセージ	<p><b>【ゼミの内容】</b> サービス産業の中でも観光産業とエンターテインメント産業に焦点を当て、サービス関連企業がさまざまな環境変化に対応しながら、いかに持続的成長を実現していくのかを考えます。具体的には、経営戦略論およびマーケティング論の基礎的な分析枠組み (PEST、ファイブフォース、SWOT、マーケティングミックスなど) を学びつつ、サービス関連企業の経営戦略やマーケティング戦略を分析し、レポートとしてまとめます。</p> <p><b>【ゼミの目標】</b> ①サービス関連企業が直面する問題や課題を経営学的な観点から分析・解決できる能力を習得する ②就職活動を勝ち抜くための学力、コミュニケーション能力、企画力、構成力、プレゼン力を獲得する</p> <p><b>【メッセージ】</b> 観光に限らず広く企業経営 (ビジネス) に興味のある人、自分で稼ぐ力を身につけたい人 (起業希望者)、また、八木が音楽会社 (レコード会社) での実務経験があり、エンターテインメントビジネス (音楽、ゲーム、アニメ、映画) を専門とすることから、エンターテインメントビジネスに関心のある人は歓迎します。</p>
ゼミの進め方	<p>3 年次：通常のゼミでは文献購読やグループワーク、フィールドワークなどを通じて、経営戦略論およびマーケティング論の基礎的な理論・概念を学びます。また、通常ゼミと並行してプロジェクト学習を行います。本年度は出版社 masterpeace(株)との産学連携による「大学生による起業家インタビュー本出版プロジェクト」を実施し、コーヒー起業家との対話 (インタビュー) を通じて、起業・起業家精神、ホスピタリティ、社会課題解決について学び、コーヒー起業家のインタビュー本を出版します。プロジェクト学習に関しては、ゼミ生の興味関心を踏まえてプロジェクトの内容を決定します。企業訪問は観光・エンターテインメント関連企業・施設を予定しています。</p> <p>4 年次：各自設定した卒業研究テーマに基づき、調査、論文執筆およびプレゼン準備を行います。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミナールは、学生が主体的な学び手となり、教員とともに作り上げるところに特徴があるので、ゼミ生には教員や他のゼミメンバーと積極的に関わり、主体的に学び、動くことが求められます。企業訪問、ゼミ合宿旅行、シンポジウム参加など、ゼミ行事には積極的に参加してください。合宿等の費用は自己負担となります。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光とビジネス、観光ビジネスプロジェクト演習 I・II
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類審査と面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後、顔合わせ会を行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	企業経営 (ビジネス) に関わるものであればどのようなテーマでも可です。対象となる業種・業界も特に限定しません。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@bunkyo.ac.jp
研究室	3413
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 市民の環境貢献、社会で役立つ統計知識 【秋学期】 景観と風景のまちづくり、環境社会学、国際化・情報化時代の社会学、国際理解と社会・経済、観光調査演習
研究室を訪問できる時間帯	研究室は火曜（昼休み）と金曜（昼休み）、金曜のゼミはいつでも見学可能です。
ゼミのテーマ	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～
ゼミの内容・メッセージ	私たちはどのようにステキなまちをつくることができるか。この問いを土台に、地域社会の望ましさの実現を、市民の役割とともに考えます。たとえば、1) 市民の地域活動と地域形成（参加と決定を含む）、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献、地域活性化等を、2) 国内外の関連課題や、身近な生活・文化の比較考察と関連させ、3) さまざまなまち（地域）の姿として検討します。社会学をもとに、参加者と議論しながら考えるスタイルのゼミです。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口をみつけます。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に3回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールにしています。また、全員がプロジェクトチーム（研究班）に入ってもらいます。これは3・4年生合同で編成し、卒業研究にむけた研究を進めるグループです。各月の最終週をこの時間とし、年度内に数回、報告会を開きます。合宿の他、社会調査やまちづくり実習、他ゼミ（他大学）との交流、海外研修（希望者のみ）を行い、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	「みんなでつくるゼミ」を目指し、4月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流、調査や実習は、全員参加を原則とします。
ゼミ履修に望ましい科目	それぞれの関心を持ちよってもらいたいので、とくに定めません。
定員	12名（学外での研究活動を実施する予定があるためです。）
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を該当者にメール（大学のアドレス宛）で連絡します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時と方法は個別にメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。また、卒業研究発表会のポスターも Google Drive で公開されていますので、参考にして下さい。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	アットホームな雰囲気ので、現3年生はゼミ長をはじめステキなメンバーがそろっています。学生主体のため、自分で考える力を身につけることができます。また、他大学との交流や自治体イベント等に参加する活動もおもしろいです。このような山田ゼミに入っていたらうれしいです。

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	<a href="mailto:watanabe@bunkyo.ac.jp">watanabe@bunkyo.ac.jp</a>
研究室	3517
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	移民と難民、民族の歴史と世界、地域研究（東南アジア）、文化人類学、持続可能な世界、ボランティア入門、サービスマーケティング、国際理解論、フィールド調査法演習（大学院）、開発人類学（大学院）
研究室を訪問できる時間帯	ゼミ生による相談：月・水・木（昼休み）@3517 研究室 ゼミ訪問・ゼミ運営の見学：木曜（4～5 限）：Google ドライブに保管している任意資料でゼミ見学可能日・教室などを確認してください 教員との面談：Zoom（日時対応しますのでメールでご連絡ください）
ゼミのテーマ	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード：文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的排除、移民・難民、マイノリティ、国際開発支援 国際協力に限らず、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。開発協力や地域づくり、市民活動を含め、他者とかかわる際に、その地域や組織、人々について学ぶことから始まります。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学の調査手法であるフィールドワークと聞き取りをベースにしなが、個人、地域、歴史、関係性の視点から課題に切り込んでいきます。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、一つの答えや解決策をみつけることだけを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析したりすることにも重きを置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知（フィールドワークなどの学外でのゼミ活動）を深めていく学びの空間を、学生と教員が協力しながらつくっていきたくと考えます。 ※2 年次後半に顔合わせとリアルまたはオンライン合宿をして、ゼミの目標や活動の内容について話し合っ決めていきます。
ゼミの進め方	※基本的には、自分たちで計画を考えます。下記は近年の例です。 3 年次：本ゼミとサブゼミがあります。本ゼミでは、春学期は、履修者が選んだ文献を講読し、ゼミ履修者による発表やディスカッションをおこないます。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究（ゼミ論）の発表および議論を中心とします。1 年を通じて、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。サブゼミは有志による研究・実践活動で、2023 年度はウクライナ難民と写真展企画、フィリピン研修等です。 4 年次：卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について、報告をし、討論しながら精緻化していきます。一方で、時事問題の記事等をテーマにし、社会人として求められるコミュニケーション力や討論の技術などを磨いていきます。
留意事項 (Requirement など)	これまで 3 年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて実施してきました。2024 年度の実施の有無や内容について 5 月上旬から決めていきますので、一緒に検討してください。フィリピン研修の中身について、2023 年度は「福祉・教育・移動からフィリピンの社会課題を探る」をテーマに、児童養護施設、スラム地域、ムスリム居住区、地元公立学校、コーヒー農場、観光産業省を訪問し、人々が抱える課題と体系的な支援のあり方（保護、支援、自立）について聞き取りをおこなう（8 月末実施）。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」「移民と難民」「民族の歴史と世界」「開発教育論」、その他国際学部の関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	12 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接（上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。）希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周りとの協調して活動を進められるかがポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、授業の合間を縫って顔合わせをし、春休み中（2 月ごろ）に、受け入れが決定した 2 年生と 3 年生を合わせた合宿も企画・実施します。そこでは、2 年生は各自の関心のすり合わせと次年度の大まかな予定を決めていきます。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	「タイにおけるミャンマー難民と教育」「在日ムスリムとの付き合い方」「LGBT という言葉の広がりとその背景」「スイスと英国から分析する日本のフェアトレード市場の改善点」「片目失明者の現状と今後」「新型コロナウイルスと障害からみる子どもたちが抱える教育格差の『壁』」「移民 2 世の国籍選択とエスニックアイデンティティ」「こども食堂の課題」「フィリピンにおける包括的性教育」など。



所属ゼミ生（先輩）からの一言	春学期は毎回持ち寄ったテーマでディスカッションしました。新しい分野の知識も得、視野を広げるとともに、熱い議論もしてきました。みなさんも私たちと一緒に「知見、ゲットだぜ！」（3年生）
----------------	--

担当者名	渡邊 三津子 (わたなべ みつこ)
e-mail アドレス	m.watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	3512
出講日	月曜日、水曜日、木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限、5 限
担当科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理、持続可能な開発論、開発と国際協力、地域研究
研究室を訪問できる時間帯	ゼミ見学：木曜 (4 限) ※Google ドライブの資料でゼミ見学可能日・教室などを確認してください。 教員との面談：※Google ドライブの資料で研究室訪問可能な時間帯を確認の上、希望時間をメールでご相談ください。
ゼミのテーマ	地理的地域調査法の習得と調査 (フィールドワーク) に基づく地理学的研究 3 年次に習得する地理学的なものの方や調査手法を活用し、各自で設定したテーマに沿って調査研究を行います。テーマ選びに際しては適宜アドバイスを行います。
ゼミの内容・メッセージ	地理学という学問では、人間が地球上で繰り広げる多様な営み (文化、生業、社会、政治、経済、交通等) の成り立ち方やその変化、空間分布について、自然環境・人文社会環境を考慮に入れながら総合的に考察し、地域の特徴を浮かび上がらせていきます。「守備範囲」がとても広い学問ですが、地理学的なものの方を学び、地域を調べるための知識・技能を習得しておくことで、幅広い分野への応用が可能です。 このゼミでは、3 年次に地理学的な調査研究を行うための知識・技能を実践的に習得します。4 年次には、各自テーマを設定して卒業研究に取り組みます。なお、3 年次の夏休みには国内外でフィールドワーク実習 (巡検) を予定しています。 社会科教員を目指している人は、指導に役立つスキルを実践的に習得できます。また、旅行・観光業を目指している人、自治体等において持続可能な地域社会の創造や文化の継承等に取り組みたい人、地域防災や地域振興に取り組みたい人、青年海外協力隊等、国際協力に興味がある人にお勧めです。
ゼミの進め方	【3 年次】 地理的調査・研究を行うための知識や技能の習得を目指します。3 年春学期～秋学期前半では、様々な地図類、空中写真・衛星画像、古写真等の図像資料の読み解く技術を習得します。また、大学周辺の身近な地域を対象としたフィールドワークを通して、文献・資料収集の方法や、地理的な地域調査法を実践的に習得します。3 年秋学期からは、卒業論文のテーマ決定に向け、関連した論文購読・発表を行います。 【4 年次】 4 月に、卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたて、3 年次に習得した地理学的なものの方や調査手法を活用して各自で調査研究を進め、卒業論文を執筆します。 【夏休み】 学外での巡検 (フィールドワーク) を行います。
留意事項 (Requirement など)	・ 国内外の巡検 (フィールドワーク) を予定しており、フィールドが遠方 (海外) の場合には相応の経費が必要です。※ 巡検先については 4 月に相談して決定します。新型コロナウイルス感染症の状況や社会情勢により中止の可能性もあります。 ・ 巡検の事前準備、実施、事後レポート作成・報告会準備などで、かなりの時間が必要となります。 ゼミの活動には原則参加してください。
ゼミ履修に望ましい科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理 地理学の基礎を習得していることを前提として進めます。ゼミ履修と並行しても構いませんが、上記科目の履修を強く推奨します。
定員	10 名 学外での巡検実施を予定しているため 10 名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容をもとに選考を行います。選考に際しては、ゼミで学びたい内容や熱意、ゼミへの貢献可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、全員で顔合わせを行います。日時は追って連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	今年度からの開講のため卒業論文はまだありませんが、フィールドワークに基づく地理学的研究であれば応相談。フィールドは国内外を問いません。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	

担当者名	<b>A (宗教学、宗教社会学)</b>
担当科目 (予定)	宗教人類学、現代世界と宗教、東洋思想と国際社会、宗教学 (共通教育)、文化人類学 (共通教育)、倫理学 (共通教育)
ゼミのテーマ	<予定> 宗教から理解する現代世界、社会における宗教の役割
ゼミの内容・メッセージ	2024 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の山田先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	<b>B (国際経済学、経済発展論)</b>
担当科目 (予定)	発展途上諸国社会経済論、国際理解と社会・経済、世界経済の現状と課題、グローバル経済論
ゼミのテーマ	<予定> 国際社会における経済の役割、経済発展とこれからの世界
ゼミの内容・メッセージ	2024 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際理解学科長の山田先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	C (宿泊産業論)
担当科目 (予定)	ホテルサービス論、ホテル事業論、ホテルマネジメント論、ホスピタリティ演習 B (ホテル)、ホスピタリティ人材開発、キャリア形成 A
ゼミのテーマ	<予定>ホテルサービス、ホテルマネジメント
ゼミの内容・メッセージ	2024 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の種村先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。

担当者名	D (フードツーリズム)
担当科目	フードツーリズム論、食の文化論、ホスピタリティ演習 A (フード)、地域プロデュース論
ゼミのテーマ	<予定>フードツーリズム
ゼミの内容・メッセージ	2024 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科長の種村先生までお願いします。
定員	18 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。